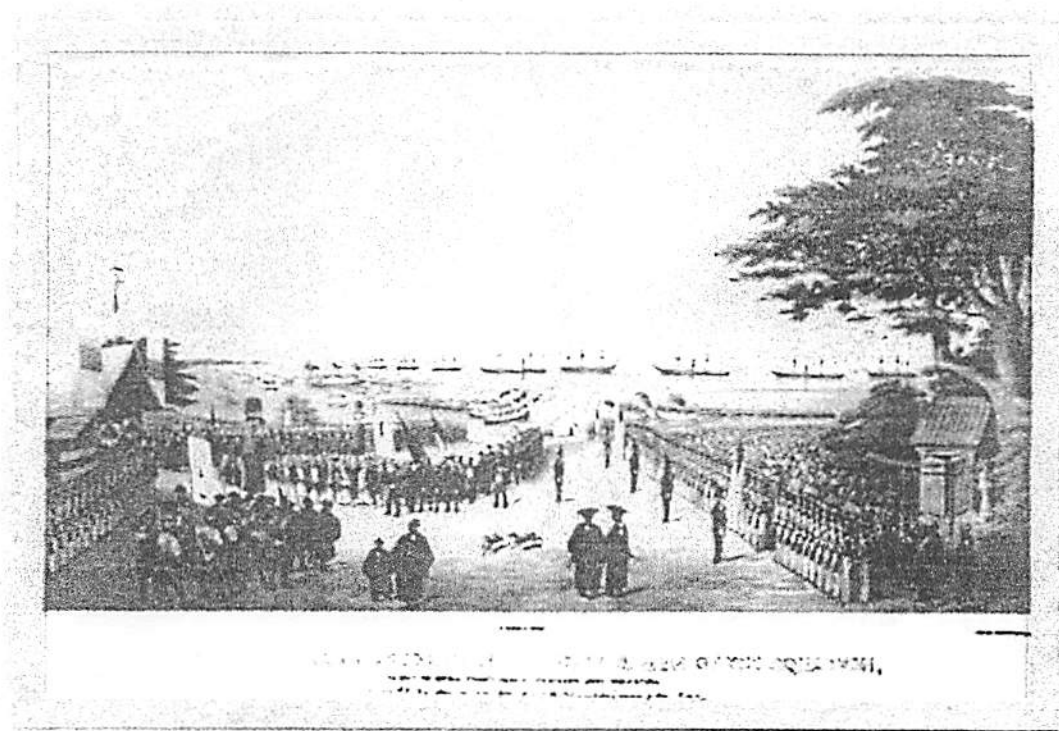


平成25年7月28日(日)

第440回 史跡めぐり

開国、開港の地 ミナト・ヨコハマ



1854年ペリー提督横浜上陸の絵図。

右端の樹木は、玉楠で、現在でも資料館内にて横浜の歴史を見続けています。

NPO 法人 越谷市郷土研究会

コースガイド

第440回 史跡巡り

開国・開港の地 ミナト・ヨコハマ

涼しい電車往復・本格中華・海からの横浜眺望の旅

日時 平成二十五年七月二十八日(日)

集合 北越谷駅西口広場 午前七時二十分

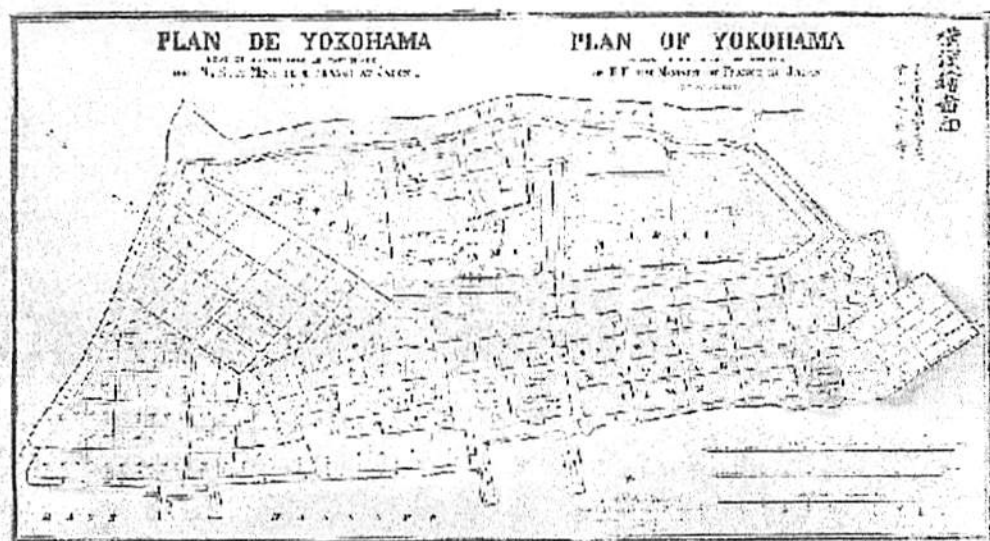
参加費 五、五〇〇円 (交通費・乗船料・入館料・保険等)

案内者 副会長・渡辺和照 理事・坂本誠一郎

日本大通り駅 10:00 出発

- ①横浜開港記念館・横浜町会所跡・天心生誕地
- ②神奈川県庁
- ③横浜開港資料館・開港広場
- ④中華街「龍鳳酒家」昼食
- ⑤関帝廟
- ⑥山下公園—マリンシャトル横浜港周遊
- ⑦山下公園—海上保安庁資料館
- ⑧赤レンガ倉庫
- ⑨万国橋
- ⑩馬車道駅
- ⑪北越谷駅

北越谷駅 18:30 帰着予定



「横浜絵図」 1865年クリベ(フランス公使付きの建築家)作成の実測地図。・参照「日本大通り・山下公園」の項。

● 横浜の歴史概要

現在人口370万人を数える大都市横浜市も、開港当時は戸数僅か100戸足らずの宗閩嶋と呼ばれた砂州上に形成された半農半漁の寒村でした。

1843年(天保14年)の東海道宿村大概帳によれば、神奈川宿(人口5,793人・戸数1,341軒・旅籠屋58軒)や、戸塚宿(人口2,900人余り・戸数613軒・旅籠屋本陣含め80軒)に比べれば、本場に小さな片田舎村に過ぎませんでした。(参考・当時の越谷宿人口4,603人・戸数1,005軒・本陣含め旅籠屋57軒)

横浜の歴史年表および開港後、横浜における日本最初の出来事については、別紙⑨⑩を参照下さい。

● 横浜三塔

横浜三塔とは、①キングの塔(神奈川県庁本庁舎)、②クイーンの塔(横浜税関)、③ジャックの塔(横浜市開港記念会館)です。

これらの三塔を同時に見られるスポット(1、県庁の正面 2、横浜赤レンガ倉庫パーク 3、大桟橋国際客船ターミナル)をすべて回ると願いが叶うと言う都市伝説があります。クルージングの際に同時に見られるかチャレンジしてみてください。尚、これらの3塔の建物同士は、半径100mの範囲内に近接しています。塔の愛称は、入港する船の外国人船員がトランプのカードに例えて名付け、航海安全を祈り、入港目印にしたと言われています。

● 日本大通り (県庁正面前)

横浜の街づくりの歴史を振り返った時、その転換点には必ず大きな都市災害があります。1866年(慶応2年)に発生した「慶応の大火・豚屋火事」は、開港場右半分の日本人街の2/3と左半分の外国人居留地の1/4を焼失しました。そこに登場したのが現在の横浜公園と防火道路としての日本大通りです。

双方居留地の中程に36mの道幅の大通りを海岸から横浜公園まで造りました。これにより現在の関内地区の原型が形成されるに至っております。この後の横浜大災害は、関東大震災・第二次大戦横浜大空襲へと続いております。

● 横浜市開港記念会館(ジャックの塔)②



当会館は、明治42年(1909年)横浜開港50周年を記念し、市民から寄付を募り建設決定されました。

大正期の代表的建物で国の重要文化財にも指定され、現在も横浜市中区公会堂として利用中。竣工、開館は大正6年(1917年)であるが、僅か6年後の大正12年関東大震災により、ドームと内部焼失。昭和2年再建、昭和20年には米軍に

接收。同33年に接收解除と変遷。その後1978年にはステン

ドグラス修復。1989年には横浜市政100周年・開港130年を記念して、ドームを復元、同時に国の重要文化財に指定された。また2009年には開港150周年を記念して2階広間のステンドグラスを修復。

塔の高さは、36m(完成は1917年)です。

● 横浜町会所跡

「町会所」というのは、戸籍業務や土地台帳の管理、商人の営業許可や移住手続き、さらには住民の請願や訴訟に関する事務を取り扱った行政機関であり、現在の市役所機能を担当。またそのトップは「町年寄り」であり現在の市長のような存在。開港当初の建物は、現在の横浜地検の場所にあったが、1874年(明治7年)には、石碑の場所に移転した。しかし1890年(明治23年)には、閉鎖され、時同じく新施行の市役所に機能を引継いだ。

● 岡倉天心の生誕地

岡倉天心1863年(文久2年)〜1913年(大正2年)明治時代の美術界の指導者。現東大卒業後文部省に入り、鑑画会の創設に加わる。現東京芸術大学学長。日本美術院を創設。米國ボストン美術館東洋部長を歴任した。



岡倉天心の生誕地

● 神奈川県庁(キングの塔)



塔の高さは49m(完成は1928年)です。関東大震災1923年(大正12年)で焼失した旧県庁舎の再建に当たり、公募で当選した小尾嘉郎の案をもとに、成富又三の設計・建築顧問として佐野利器が迎えられた。昭和初期に流行した帝冠洋式が取り入れられ1996年には歴史的建造物として国の登録有形文化財に登録されています。

● 横浜開港資料館



当資料館は、江戸時代から大正・昭和初期までの国内外の歴史資料を集め、広く公開・普及し、世代間の交流と市民相互のふれあいを高める事を目的として、昭和56年横浜開港記念日に、日米和親条約が結ばれた由緒ある地(開港場かいこうじょうと呼ばれていた所の中心地)に開設されました。旧館の建物は昭和6年に建てられた旧英国総領事館で、記念ホールはその待合室であったところです。

● 玉楠(タブノキ)

開港資料館の中庭にある玉楠(タブノキ)は、1866年(慶応2年)の火事や1923年(大正12年)の開東大震災で焼けてしまいましたが、再び芽を出して大きくなっています。すごい生命力で横浜の歴史を見続けております。

● 開港広場

「日米和親条約締結の地」としての記念碑・説明板が設置されています。更に「日米交流150周年記念樹」・「旧居留地90番地の大砲」「時計塔」「明治10年代築造のレンガ造りマンホールと下水管」なども設置されています。

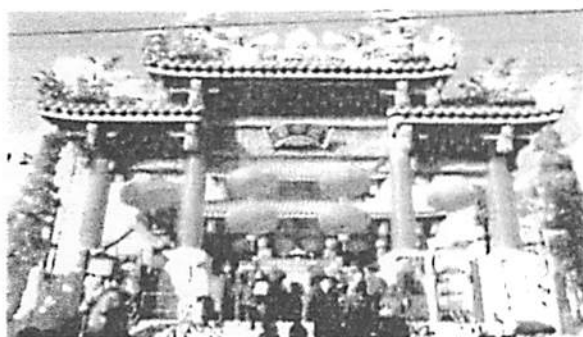
● 昼食・横浜中華街(龍鳳酒家)



広東料理(中華料理の四大菜系の一つ)で 創業33年の歴史を有し、以前TBSテレビ番組「ギズナ食堂」でも紹介され、「中華街で働く人が選ぶ、ウマくて安い隠れた名店」の第一位に選ばれた逸品「排骨飯」を提供する有名なお店です。

● 関帝廟

関帝廟に祀られているのは、三国志の英雄・関羽。関羽は生涯を通じて義にあつく、理財にも精通していたから武神であると共に商売の神として中国人から崇められています。中国は元より世界各地の中華街に関帝廟が開か



れています。(中国ではソロバンの発明者と言われる伝説があります)

横浜関帝廟の創設は、1862年一人の中国人が関羽の木像を抱き、ささやかなお堂を設けたのが始まりと言われています。そして1871年「初代の関帝廟」が華僑の募金を基に建立。しかし開東大震災で壊滅的打撃を受け倒壊し、1925年「第2代の廟」を再建。続いて1945年の横浜大空襲で再び焼失。1947年「第3代目」が復活。更に1986年不審火で廟堂が罹災。1990年「第4代廟」の開廟式を迎えております。

媽祖廟(まそびょう)



「媽祖」は、北宋時代実在の福建省・林氏の娘(林默娘)で歴代皇帝から「天上聖母」「天妃」「天后」の名を贈られ敬意を表されています。16歳で神から教えと銅製のお札を受けられ、神通力を使い、雲に乗って島を巡回し、お札の力で悪や災いを退け、人々の病を治し、「通玄の靈女」と尊敬の意を込めてよばれています。2006年の開廟です。

山下公園



諸外国との間で1858年(安政5年)締結の通商条約を受けて開港場の建設が急ピッチで進められ、貿易の為の港湾施設として波止場が築造され、貿易商人達の店舗や住宅が建設されました。(①ページ、実測図及び裏表紙、造成中写真をご参照下さい)

この開港場横浜は出島の様に周囲



マリオンシャトル Marina Shuttle

を水に囲まれた市街地であった。図に向かって右側は日本人街。左側は外国人居留地。日本人側にはイギリス波止場(こちらは突堤が延長され現在の象の鼻として復元されている)一方の外国人側には、フランス波止場があったがフランス波止場を含む前面は、関東大震災後、大量のガレキで埋め立てられ、現在の山下公園として生まれ変わった。現在沈床花壇となっている部分の地中には、上記波止場の石組が今も眠る。昭和5年の開園です。

マリオンシャトルで港周遊

総トン数764t・定員541名・
全長46・2m・幅10・2m・
航海速度 12・3ノット。
周遊コースは、山下公園・ベイブリッジ・東京電力発電所煙突・赤灯台・白灯台・みなとみらい21・赤レンガ倉庫などです。

往時の海外からの渡航者目線として開港の地・開港場等をご確認頂きたいと存じます。

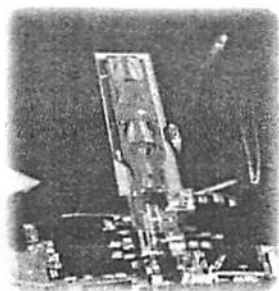
● 日本郵船氷川丸

1930年日本郵船が現三菱重工横浜製作所にて竣工の12,000t級の貨客船。北太平洋航路で長らく運行。1941年には日本海軍に徴用され病院船として南太平洋海域にて活躍。終戦後は復員輸送船・貨客船として再就航。1960年運行終了しました。

船名は、「大宮氷川神社に由来」するものとのこと。ちなみにブリッジの神棚には、氷川神社の祭神が勧請されております。

● 大棧橋埠頭（メリケン波止場）

安政6年(1859年)に開港した横浜港に、近代港湾における本格的な港湾施設として明治22年(1889年)から29年(1896年)にかけて建設された横浜港で最も歴史のある埠頭です。東京オリピック開催を契機に外国客船に対応する大改造を行い横浜港の玄関となっています。



● 象の鼻…写真は末尾に貼付

1859年(安政6年)出島東波止場(イギリス波止場)と西波止場(税関波止場)の2本の突堤が幕府により建設され、横浜港が開港。1867年(慶応3年)東波止場が弓なりに湾曲した形に築造

され、その形状から「象の鼻」と呼ばれています。

● 横浜税関(クイーンズの塔)

塔の高さは51m(完成は1934年)です。



の庁舎が建築された。

横浜市認定歴史的建造物です。

● 赤レンガ倉庫

赤レンガ倉庫は、新港埠頭の上屋施設として明治末期に着工されました。補強材として鉄材を使用し、非常用水管・防火戸等の耐震耐火設備、荷役用エレベータの設置など当時の最新技術が導入された国の模範倉庫です。

一号倉庫：1913年(大正2年)竣工。
二号倉庫：1911年(明治44年)竣工。



竣工当時の赤レンガ倉

1923年の関東大震災で2号倉庫は倒壊を免れるも、一号倉庫は半壊し規模縮小補強して税関施設に使用。第二次大戦後は米軍に接收され、港湾司令部として使用。1956年以降順次接收解除され、倉庫として再開されるも、その後は取引量減少し、近代化された本牧ふ頭に役割がとって替わられ、1989年用途廃止。1992年横浜市は国から取得し、2002年新たな文化・商業施設として再生、オープンしました。

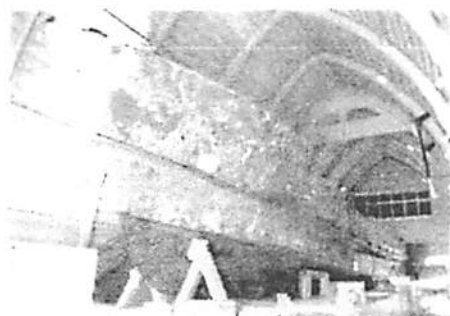
そして横浜のシンボルとして新たな歴史を刻みつつけています。また敷地内には、旧横浜港(みなと)駅のプラットホームが1911年に横浜税関構内の荷扱所として造られています。東京駅から初の汽船連絡列車が乗り入れ「岸壁列車」と呼ばれ親しまれていました。(注)現在もレールが路上に残されています。

海上保安庁資料館

平成16年12月10日開館。20

01年(平成13)年12月22日九州南西海域で発生した北朝鮮工作船事件の工作船及び武器などの回収物類を保存・展示。なお、本事件は平成18年10月27日、東京地方検察庁より当該工作船が「覚せい剤を密輸」と認定された。

当該所在場所は1899年(明治32



年)から1917年(大正6年)にかけて建設され、その中で外国航路客船の発着場とした活躍した歓送迎デッキが現在の海上保安庁の横浜海上防災基地となっています。

世界最大の巡視船

巡視船 しきしま 排水量総

トン数 7,175Ton

全長150m 全幅16.5m 世

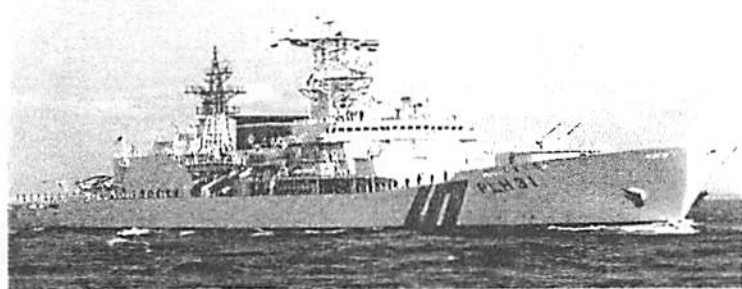
界最大のスピード(機密事項)

1992年に就役しました。

巡視船とは、沿岸・港湾で警備、救難の為に巡視に当たる船。

しきしまは、1992年に予定されていたイギリス・フランスから日本までのプルトゥム運搬船護衛用として1990年度予算で開発されました。

海上保安庁が保有する世界最大の巡視船でその大きさは海上自衛隊のイージス艦こんごう型護衛艦にも迫るサイズとの事です。



万国橋



1940年完成。馬車道駅と赤レンガ倉庫を結ぶコンクリートアーチ橋として有名。

橋からみえる横浜みなとみらいの光景は、超人気スポットでテレビドラマの撮影で度々使用(特に夜景は絶好のスポット)されています。

象の鼻・・・写真貼付

横浜市第二合同庁舎



前身は、日本から輸出される生糸の品質向上を目的として、1896年(明治29年)に発足した横浜生糸検査所。関東大震災で現在の場所に遠藤於菟の設計で移転・再建された。市民からは「キーケン」の愛称で親しまれた。正面上部には、蚕の成虫をモチーフにした紋章が設置されている。現在では、主として省庁の出先機関の合同庁舎として使用されています。



明治43年(1910年)当時の象の鼻地区とその周辺

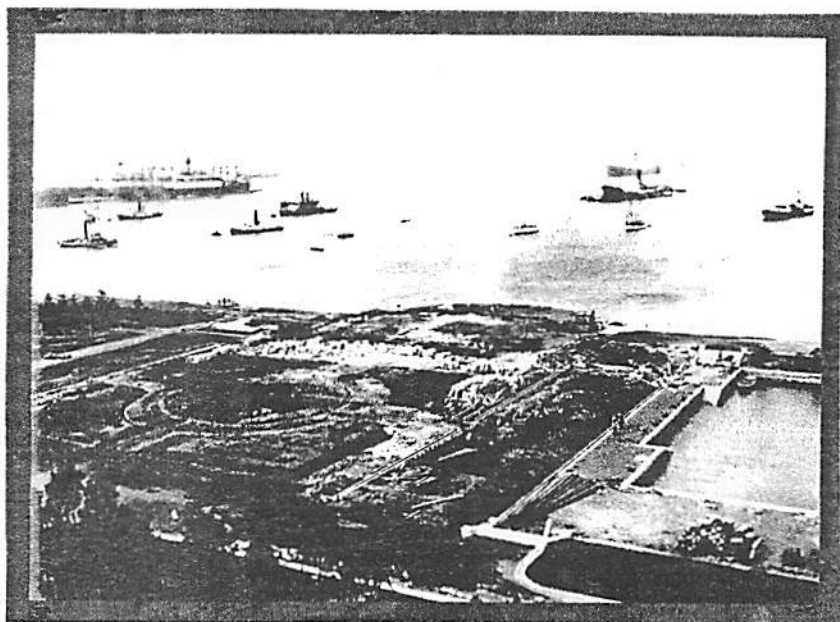
横浜の歴史年表

12万5千年前	先土器時代	下末吉海進 間氷期 海面が現在より5~10m高(鶴見区下末吉)
約3万年前		横浜市域が陸化し、立川ロームの堆積が始まる 市内に初めて人間が現る(矢指谷)
6000年前	縄文時代	縄文海進が始まり、多数の貝塚集落が古鶴見湾岸に成立(南堀・西ノ谷貝塚)
4世紀	古墳時代	古墳の築造始まる(観音松・稲荷前古墳)
534	安閑天皇元年	市域の地名、文献上に初出 橋花・久良などが「日本書紀」に
	平安時代	市域には、平子氏・榛谷氏・稲毛氏などの武士団が勢力を張る (今に残る弘明寺・宝生寺等はこれら有力武士団の支援を受けたと考えられる)
8世紀		都筑郡衙がつくられる。(長者原遺跡)
927		杉山神社が式内社となる (西区)
1233	貞永2年	鎌倉将軍家 平子経久に平子郷内石河村を安堵する
1442	嘉吉2年	比留間範数らが石河宝金剛院に横浜村の薬師堂免田島を寄進 (横浜の地名の初出)
1478	文明10年	長尾影春の乱により太田道灌が小机城に来攻 落城
1512	永正9年	北条早雲・同氏綱 本牧4か村に制札を掲げる
1542	天文11年	横浜市域、後北条氏の地検を受ける
1590	天正18年	家康江戸入り。横浜市域は徳川氏の領地となる。翌年から領内検地開始
1601	慶長6年	東海道宿伝馬の制 (神奈川宿・保土ヶ谷宿・1604年には戸塚宿も)
1707	宝永4年	富士山噴火 降灰の罹災
1722	享保7年	下野皆川藩 米倉氏(一万5千石)、転封を命じられ武蔵金沢に陣屋を置く (ペリー浦賀に来航)
1853	嘉永6年	ペリー提督横浜上陸
1854	安政元年	横浜村で日米和親条約締結
1858	安政5年	日米修好通商条約締結
1859	安政6年	横浜開港(同じく長崎・箱館も) 吉田橋に関門設置(海側が関内・陸側が関外)
1860	万延元年	外国人遊歩区域の見張り番所設置
1862	文久2年	生麦事件(島津久光家来、イギリス人殺傷)
1866	慶応2年	大火(慶応の大火・豚屋火事)で関内の大半焼失
1867	慶応3年	馬車道完成・日本大通り完成
1875	明治8年	横浜町会所で大区長会議開催
1889	明治22年	横浜市誕生(市政の施行)
1894	明治27年	横浜港の鉄棧橋(現大棧橋の前身)完成
1911	明治44年	旧横浜港駅 東京駅からの初の汽船連絡列車(岸壁列車)
1923	大正12年	関東大震災(震源地は相模湾 マグニチュード7.9 横浜震度=7で最大) 横浜市で死者行方不明者2万1千人余(総人口比 約5%) 全焼・半壊8万戸余(総世帯数比は84%) (注)東京市の同じ比率に対し 死者・行方不明者比は約2倍 焼失・倒壊戸数比では30%増し
1945	昭和20年	横浜大空襲(5月29日)で磯子区から鶴見区に至る沿岸部が焼き尽くされ 中心地は壊滅状態 敗戦で港湾施設90%・市街地の30%が米軍に接收された。
1950	昭和25年	復興に取り組み開始。以後の素晴らしい発展振りは皆さまご存知の通り
1958	昭和33年	開港100年祭開催
2009	平成21年	開港150周年

開港後、「横浜における主な日本最初の出来事」

1859	安政6年	開港した横浜港の最初の輸出品は、生糸(信州、上田産)…絹の道
1860	万延元年	日本人のパン屋第一号 野田兵吾
1860		最初のホテル「ヨコハマホテル」和蘭人C・Jフフナーゲル開業
1861	文久元年	本格的西洋式洗濯業(クリーニング)開始 渡辺善兵衛
1862	文久元年	日本最初の「牛鍋屋」入船町居酒屋伊勢熊
1862		居留外国人へ布教の為の日本初カトリック教会聖堂建設(横浜天主堂)
1862		造成中の旧横浜新田で初の競馬 その後1867根岸の丘に本格競馬場完成
1863	文久3年	洋裁業開始(ピアソン夫人が上海の会社横浜支店支配人となったのが初め)
1864	元治元年	日本初の邦字新聞(外国新聞の翻訳編集)「海外新聞」発刊
1864		※ 横浜でボーリング開始。(しかし日本では長崎が最初で遅れること3年後)
1866	慶応2年	岸田吟香はヘボンから目薬の製造を伝授され、国産目薬発売
1866		前田留吉が蘭人スネルの援助を受け、牧場を作り、牛乳しぼり業開始
1867	慶応3年	ヘボン(医者・宣教師)が日本初の和英辞典「和英語林集成」の出版
1867		近代街路樹の植樹(開港場・馬車道)
1868	明治元年	洋書の直輸入開始(丸善を創設した早矢仕有的)
1869	明治2年	町田房造が馬車道にて氷店開店。アイスクリン発売。アイスクリームの初。
1869		最初の電信(電報) 横浜電信局⇄東京電信局
1869		外国人居留地に外国の理容技術を覚えた小倉虎吉が開業。
1869		日本初の乗合馬車 吉田橋⇄東京間(2頭立て6人乗り 片道約4時間)
		※(吉田橋は横浜最初の「鉄の橋」で、1868長崎くろがね橋に次いで日本2番目の鉄橋 (注)吉田橋には、関内由来の「関門」が設置され海側が「関内」・陸側「関外」と
1869		日本吹奏楽の発祥(軍楽隊の誕生)
1869		長崎生まれの大野谷蔵が横浜で最初の西洋料理店を開業
1870	明治3年	日刊新聞「横浜毎日新聞」創刊
1870		最初のビール醸造横浜ブルワリー(キリンビールへ)
1870		日本最初の洋式公園
1870		アメリカから機械を導入「メリヤス靴下」製造
1871	明治4年	警備パトロール開始 「ドンドコ回り」
1871		日本最初の野球の試合 居留外国人チーム
1872	明治5年	最初の鉄道創業(横浜⇒現桜木町駅⇄新橋駅間を53分で走った)
1872		最初のガス灯を灯す(高島嘉右衛門が現在の本町小学校辺りにガス工場を作る)
1873	明治6年	西洋がわらとレンガを製造(仏人ジェラルが現在の元町公園辺りで)
1873		堤磯右衛門が石鹼工場を設立 国産化開始
1874	明治7年	菊林林蔵がマッチ製造 摺付木(すりつけぎ)と命名
1875	明治8年	外国郵便創業(それまではアメリカ郵便局の所管)
1875		ワイシャツの国産開始
1876	明治9年	我国最古の公園(横浜スタジアム東側にある横浜公園) プラントンの設計 (外国人専用公園を含めれば、1870(明治3年)の山手公園が最古洋式公園)
1877	明治10年	石川孫右衛門自転車16台を輸入し、「貸し自転車業」を始めた
1878	明治11年	外国人専用のテニスコート
1879	明治12年	機械製氷の開業 (和蘭人ストルネブリンク)
1881	明治14年	クラーク博士(歯科医師)診療所開設
1882	明治15年	印章業藤木節斎キーコフからゴム印の製造法を学び、ゴム印製造開始
1884	明治17年	三味線職人西川虎吉が外国人からオルガン・ピアノ製造を学び、オルガン製造
1887	明治20年	英人パーマーらは、相模川の水源地から48km鉄管敷設。近代水道開始
1890	明治23年	※ 横浜電気供給開始 (日本の最初は明治20年東京電灯が最初)
1890		電話交換の創始(横浜電話交換所が日本で最初の交換業務開始 (加入者東京155人・横浜42人)
1911	明治44年	赤レンガ倉庫荷役用エレベータ設置
1914	大正3年	日本初の消防車配置(1871(明治4年)居留地消防隊設置 地下貯水槽遺跡)

※印は、横浜における最初の出来事。(本表では3件列举)



参考資料

NPO 法人 越谷市郷土研究会資料

横浜中区の歴史を碑もとく絵地図

関東大震災における横浜市の被害の研究

横浜150年の歴史と現在(開港場物語)

図説「横浜の歴史」市政一〇〇周年

横浜旧東海道ウォーキングマップ

赤レンガ倉庫の歴史説明書

横浜市開港記念会館説明資料

歴史が見える

関帝廟説明書

横浜媽祖廟説明書

横浜市中区役所

辻本研究室

横浜開港資料館・読売新聞共編

図説・横浜の歴史編集委員会

横浜市文化観光局

横浜赤レンガ倉庫

横浜市開港記念会館

横浜開港資料館

関帝廟

横浜媽祖廟